

2024年12月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料

2024年8月27日
大倉工業株式会社



01. 第2四半期（中間期）決算の概要

02. 2024年12月期の業績予想

03. サステナビリティの推進

04. 参考資料



第2四半期（中間期） 決算の概要

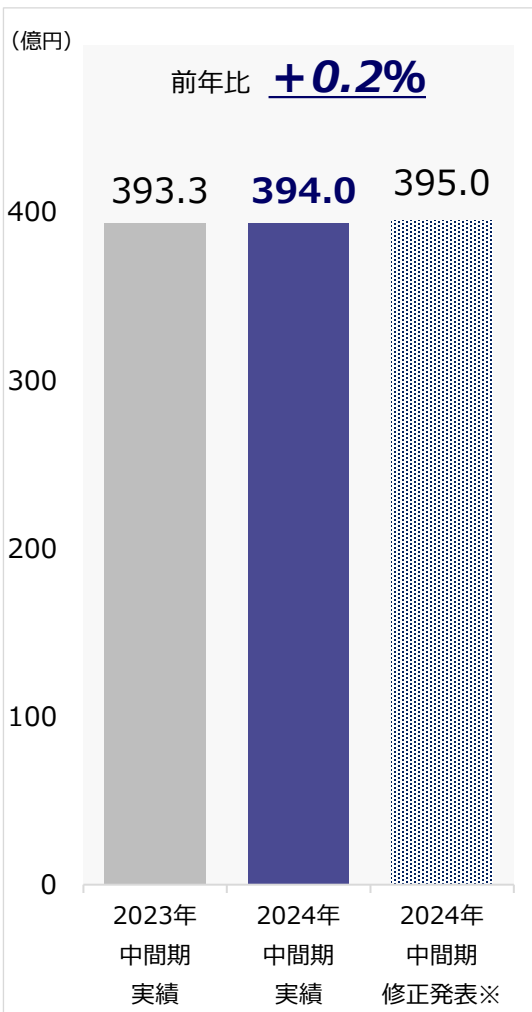
1

当期間における当社事業に関する市場動向

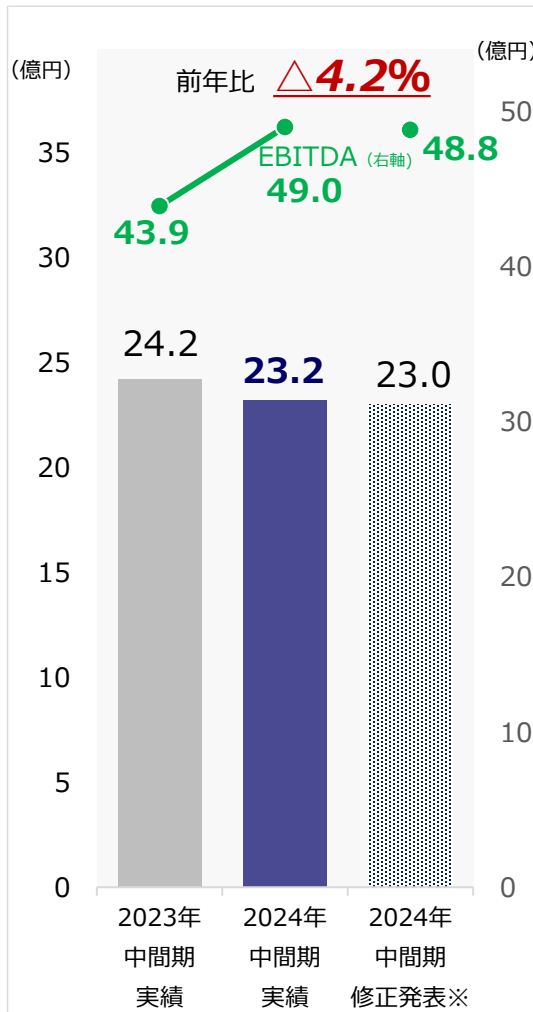
国内市場	2024年第2四半期の国産ナフサ価格は79,000円/KL予想となり、前年同期比では11,500円/KLのアップ、2024年第1四半期比でも6,500円/KLのアップ
	インバウンド需要により外食などのサービス業は堅調に推移したものの、物価上昇等による節約志向を受けて、食品や日用品などの需要は低調に推移
	2024年6月の国内木材価格は、ピーク時（2021年8月）から15.2%減の16,200円/m ³ 。 2024年6月累計の新設住宅着工戸数は、前年同期比4.5%減の407,540戸
海外市場	大型TV向けの偏光板需要は引き続き堅調。中小型市場は、世界スマートフォン出荷台数が4四半期連続の増加となり、市場回復に向けた勢いが更に高まった
	国内自動車メーカーの品質問題の影響により生産・販売台数低調。EV需要は減速
	中国国内は景気低迷の影響もあり、日系衛生用品や乳酸飲料などの需要は低調に推移

連結売上高、営業利益

【連結売上高】



【連結営業利益】



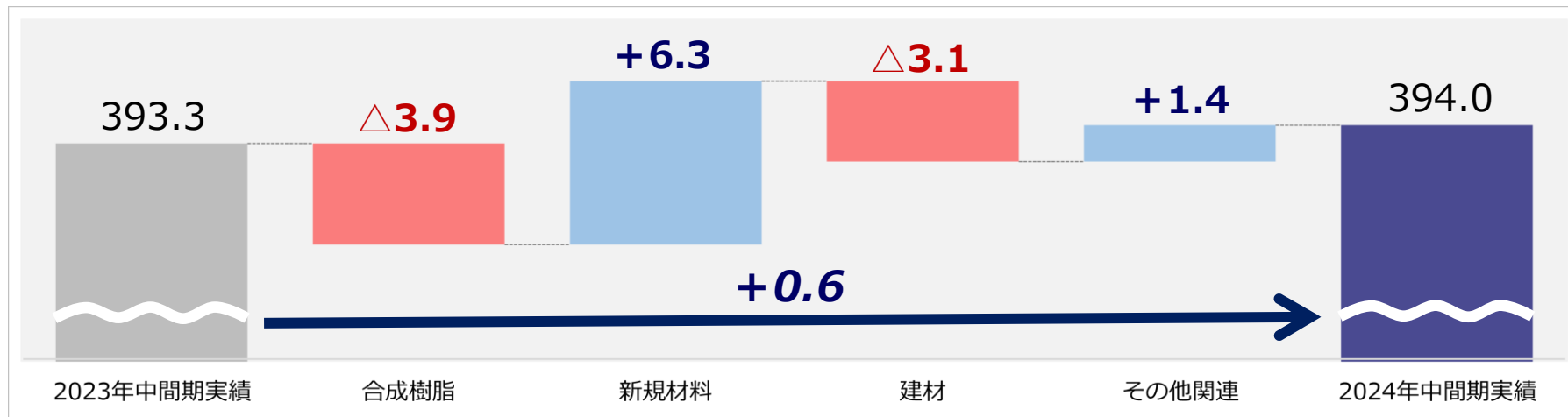
	需要増 ↑	需要減 ↓
合成樹脂業	● 環境貢献製品は堅調	● 消費者の節約志向を受けて食品、日用品、農業用途などは苦戦
新規材料業	● 中小型パネル向けは需要回復 ● 大型液晶パネル用途は需要堅調	● 車載用途の機能性材料は低調
建事材業	● パーティクルボードは堅調	● プレカット事業は新設戸建住宅着工戸数減により苦戦
その他関連事業	● ホテル事業の宿泊と宴会の需要が回復	

※2024年中間期修正発表は2024年6月14日付「業績予想の修正に関するお知らせ」記載の業績予想値

連結売上高、営業利益 セグメント別増減内訳

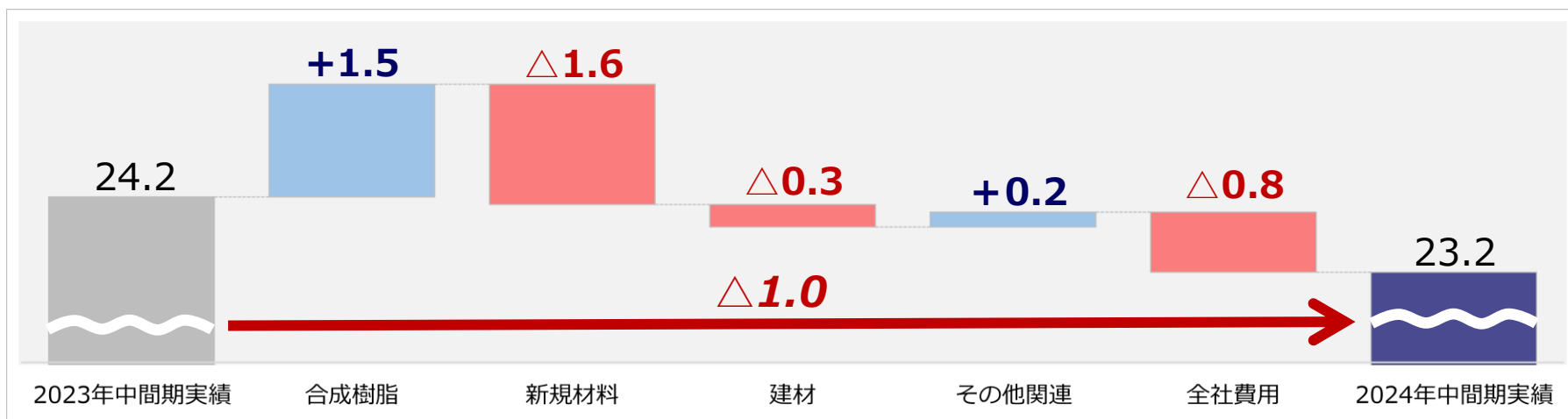
【連結売上高】

(億円)



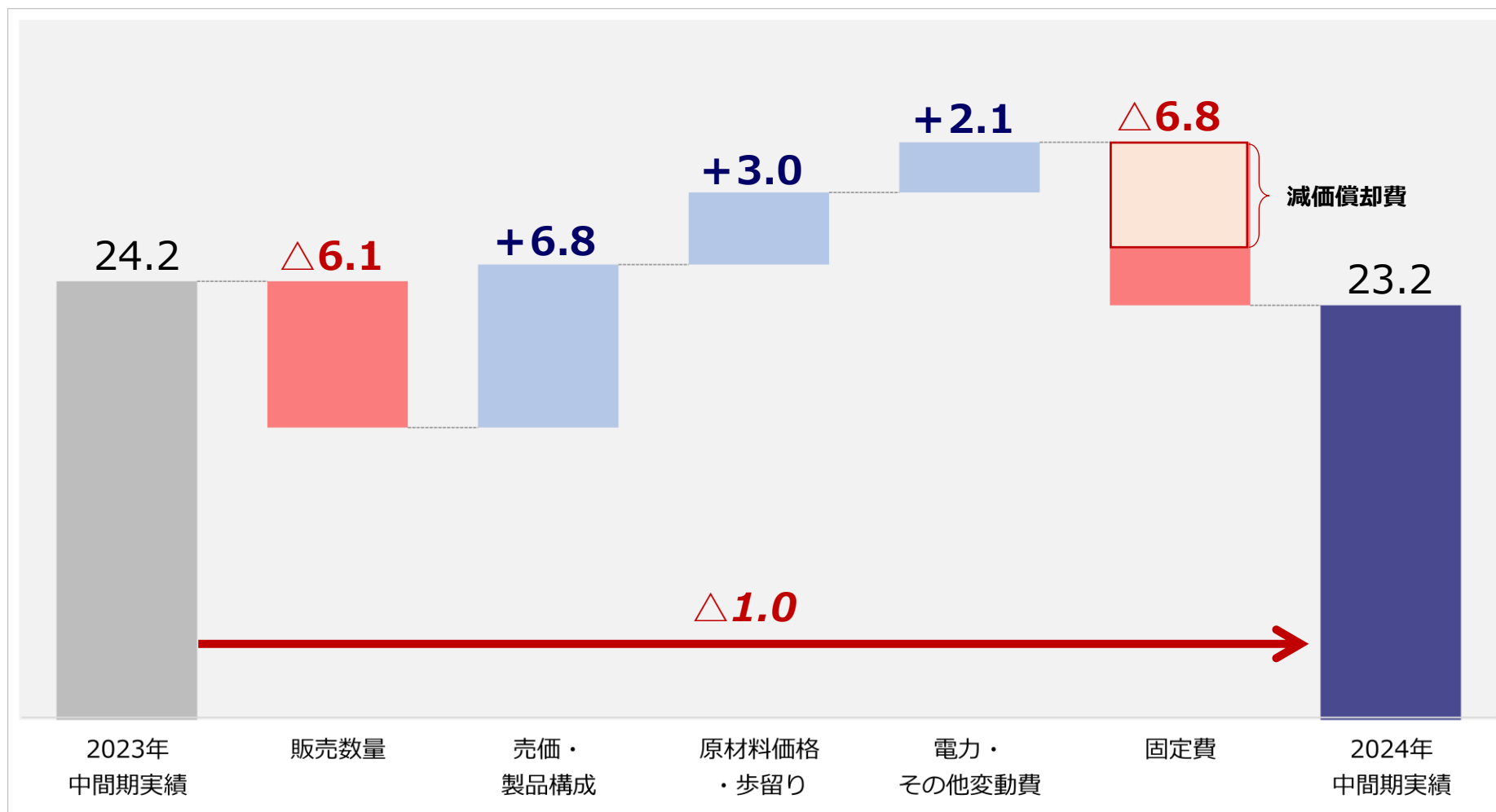
【連結営業利益】

(億円)

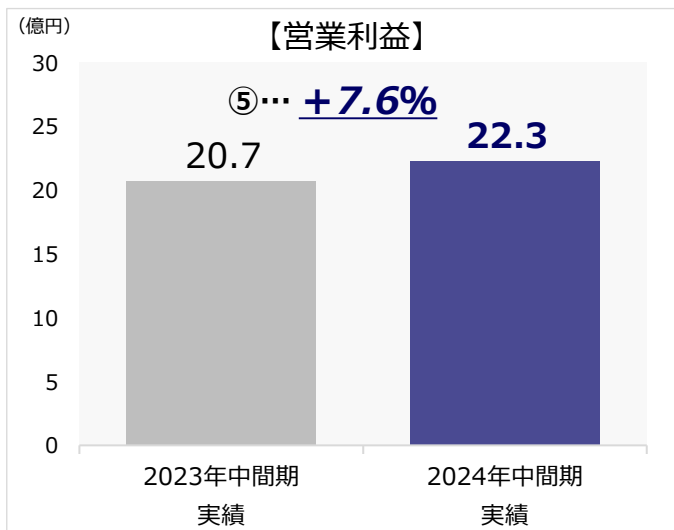
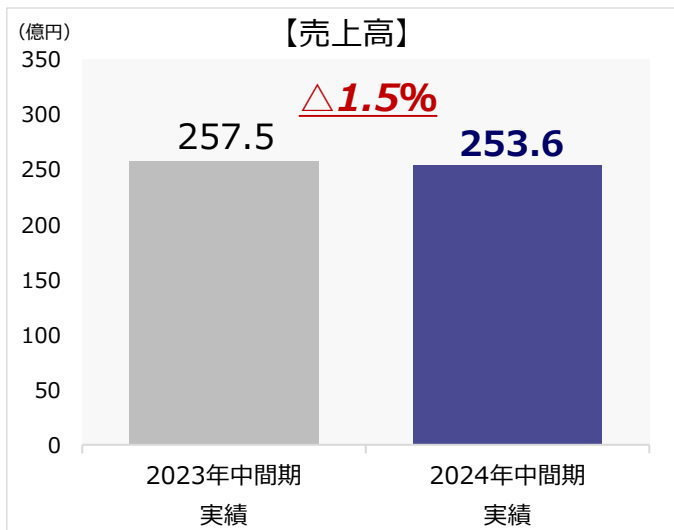


連結営業利益 増減内訳

(億円)



合成樹脂事業



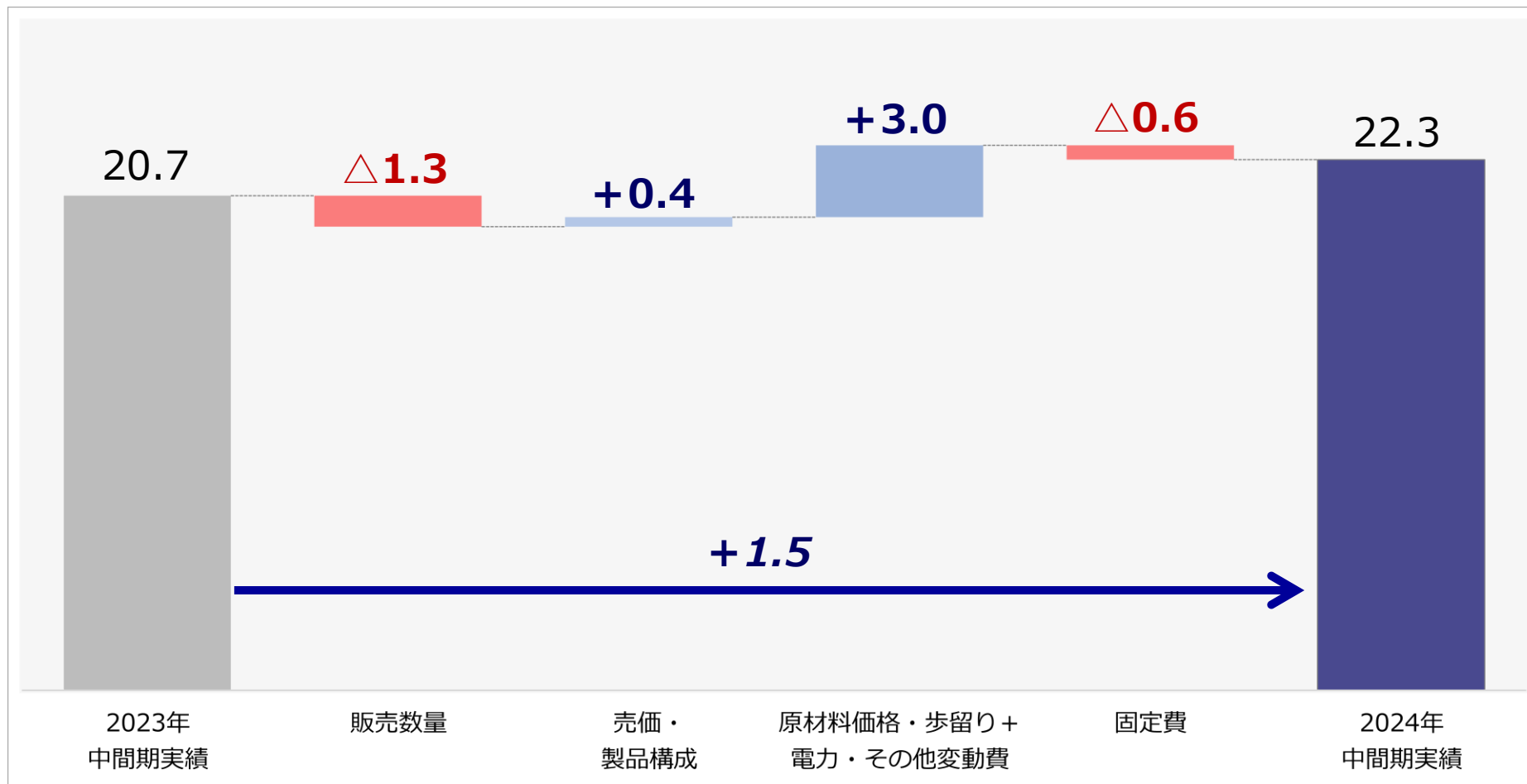
【BU別売上高】	2024年中間期実績 (百万円)	前年比
ライフ & パッケージ B U	8,815	①… △1.5%
シュリンクフィルム	4,741	△0.4%
軟 包 材	3,062	△7.1%
リキッドパック	1,011	+13.4%
プロセスマテリアル B U	3,133	②… +3.3%
ベーシックマテリアル B U	9,863	③… △1.1%
アグリマテリアル B U	2,946	④… △6.6%
そ の 他	605	△7.1%
合 計	25,364	△1.5%

- ① 消費者の節約志向により食品関係、日用品関係の包装用フィルムは低調に推移
- ② 化粧合板用シートや半導体プロセス用フィルムの販売が伸長
- ③ 衛生材料関係や建材関係など既存製品の需要低調により販売数量が減少
- ④ 生産者の当用買いに起因する販売店の在庫調整などにより販売数量が減少
- ⑤ 不採算製品の整理や生産体制の改善による生産性の向上、購入原料の見直しなどによるコスト削減により増益

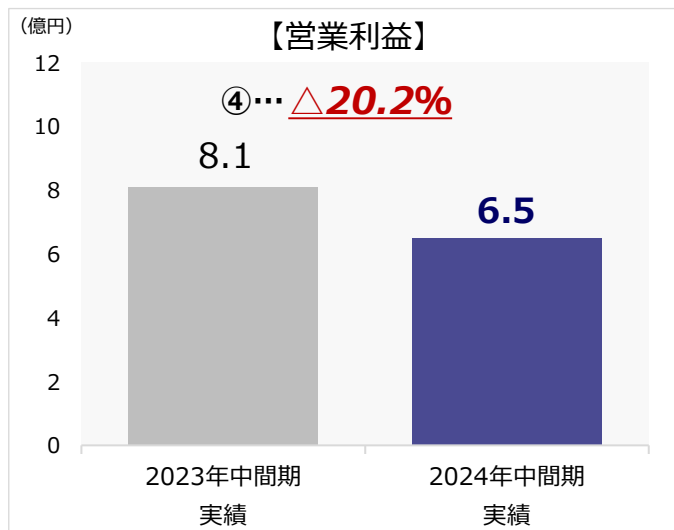
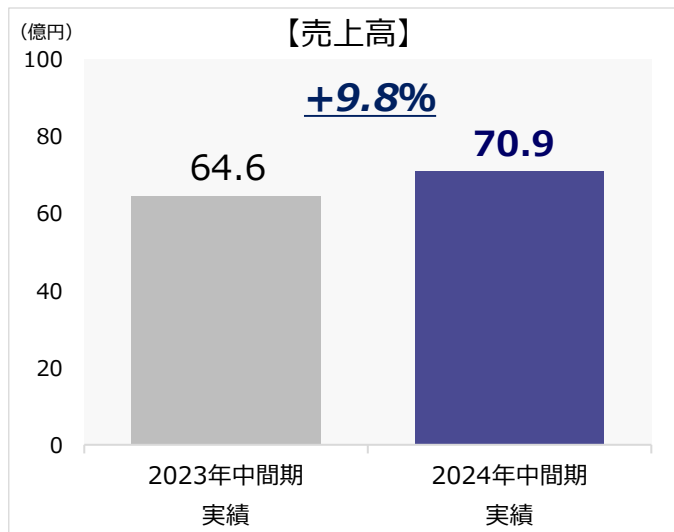
合成樹脂事業

【営業利益 増減内訳】

(億円)



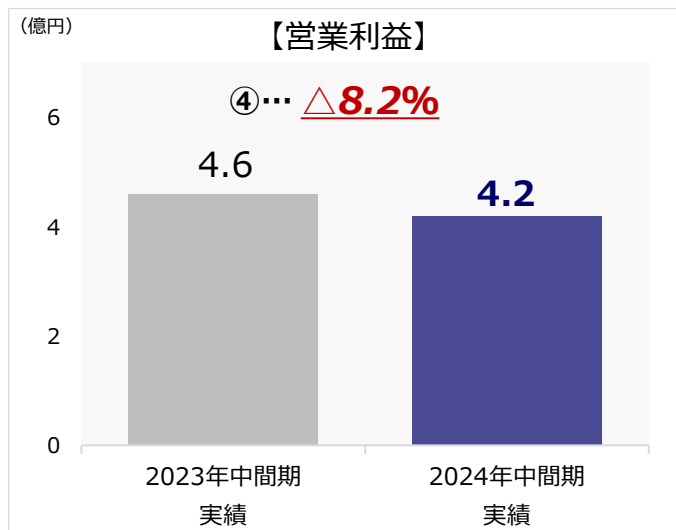
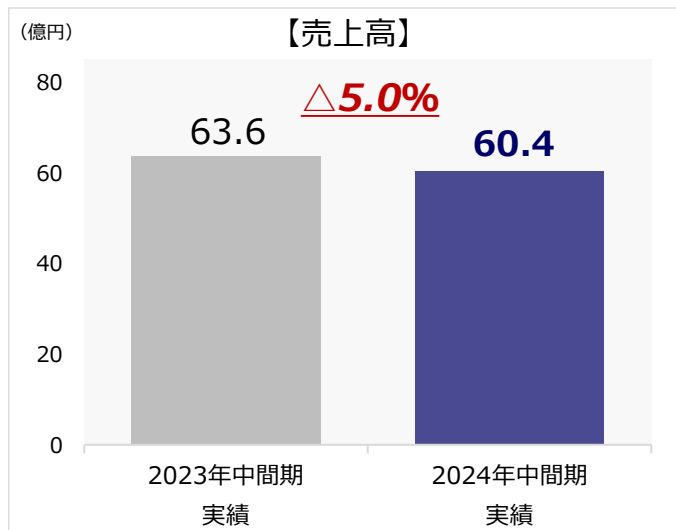
新規材料事業



【BU別売上高】	2024年中間期実績 (百万円)	前年比
機能材料BU	1,605	①... △4.6%
電子材料BU	1,323	②... +18.5%
光学材料BU	4,114	③... +13.4%
商品他	53	+68.9%
合計	7,096	+9.8%

- ① 車載用途の機能性材料フィルム（ヘッドレスト用及びペイントプロテクションフィルム）が低調
- ② スマホ・タブレット等の中小型パネル向けの需要が復調
- ③ 大型液晶パネル向け光学フィルムの需要は堅調に推移
- ④ 新工場（H棟）の減価償却費と立上げ費用等増加により減益

建材事業



【製品別売上高】	2024年中間期実績 (百万円)	前年比
パーティクルボード製品	3,783	①… △1.8%
環境資材製品	358	②… △7.2%
住宅部材製品	231	+9.4%
ハウス事業	633	+7.0%
プレカット事業	1,182	③… △19.1%
消去・組替	△142	-
合計	6,047	△5.0%

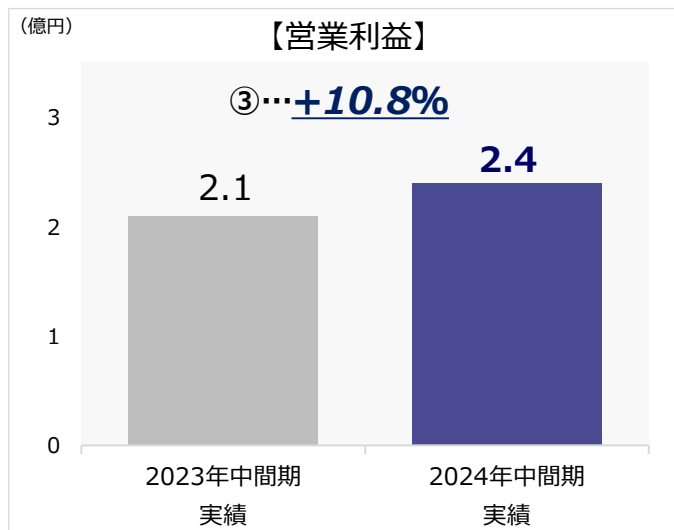
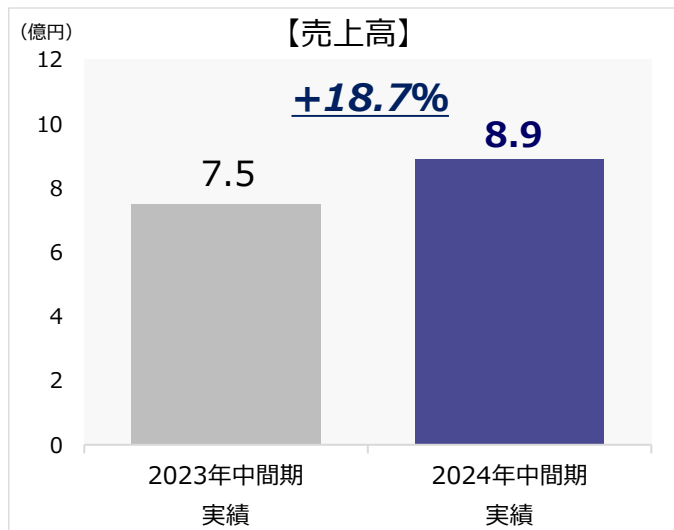
① 製品構成により販売単価が下落し減収

② コンパネの価格の下落と建築需要の低下を受け、環境貢献型枠「木守®」の販売が低調

③ 新設住宅着工戸数の悪化、販売単価の下落により減収

④ 原価低減を推進したものの、売上高の減少により減益

その他関連事業



【事業別売上高】	2024年中間期実績 (百万円)	前年比
ホテル事業	441	①…+16.1%
情報処理事業	769	②…+10.8%
賃貸事業	279	+1.3%
消去・組替	△598	—
合計	891	+18.7%

① 新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、インバウンドを中心とした宿泊や宴会が回復

② 調剤薬局向けシステムの販売が増加

③ 売上高の増加等により増益

連結損益計算書

(億円)

	2023年 中間期実績	2024年 中間期実績	増減額	主な内訳
売上高	393.3	394.0	+0.6	
営業利益	24.2	23.2	△1.0	
営業外収益	3.3	4.3	+0.9	
営業外費用	0.4	0.5	+0.0	
経常利益	27.1	27.0	△0.1	
特別利益	4.2	8.7	+4.4	【当期】固定資産売却益：8.7 【前期】投資有価証券売却益：4.2
特別損失	0.9	2.2	+1.3	
税金等調整前 中間純利益	30.4	33.5	+3.0	
法人税等	7.4	9.3	+1.8	
親会社株主に帰属する 中間純利益	23.0	24.1	+1.1	

連結貸借対照表

(億円)

		2023年 期末実績	2024年 中間期末実績	増減額	主な増減
資産の部	流動資産	509.4	529.0	+19.5	【流動】現金及び預金：+13.8 【流動】棚卸資産：+8.0
	固定資産	493.2	521.0	+27.8	【固定】投資有価証券：+24.3
	資産合計	1,002.7	1,050.1	+47.3	
負債の部	流動負債	340.7	338.7	△2.0	【流動・固定】借入金：+52.5 【流動】未払金：△37.2
	固定負債	53.2	74.2	+20.9	【流動】仕入債務：+21.4
	負債合計	394.0	412.9	+18.9	
純資産の部	純資産合計	608.6	637.1	+28.4	有価証券評価差額金：+16.9 利益剰余金：+10.8
(自己資本比率)		(60.7%)	(60.6%)	△0.0P	
借入金残高		19.0	71.5	+52.5	

連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2023年 期末実績	2023年 中間期実績	2024年 中間期実績	2024年中間期 キャッシュ・フローの主な増減要因
現金及び現金同等物 期首残高	84.4	84.4	78.0	
営業活動による キャッシュ・フロー	84.0	52.0	32.7	税金等調整前中間純利益による資金増：+33.5 減価償却費による資金増：+25.8 仕入債務の増加による資金増：+21.4
投資活動による キャッシュ・フロー	△78.9	△30.1	△ 58.8	新規材料事業における工場及び製造装置等の 有形固定資産の取得による資金減
財務活動による キャッシュ・フロー	△11.9	△12.9	39.2	借入金の増加による資金増：+52.5 配当金の支払による資金減：△13.2
現金及び現金同等物 期末残高	78.0	93.9	91.9	

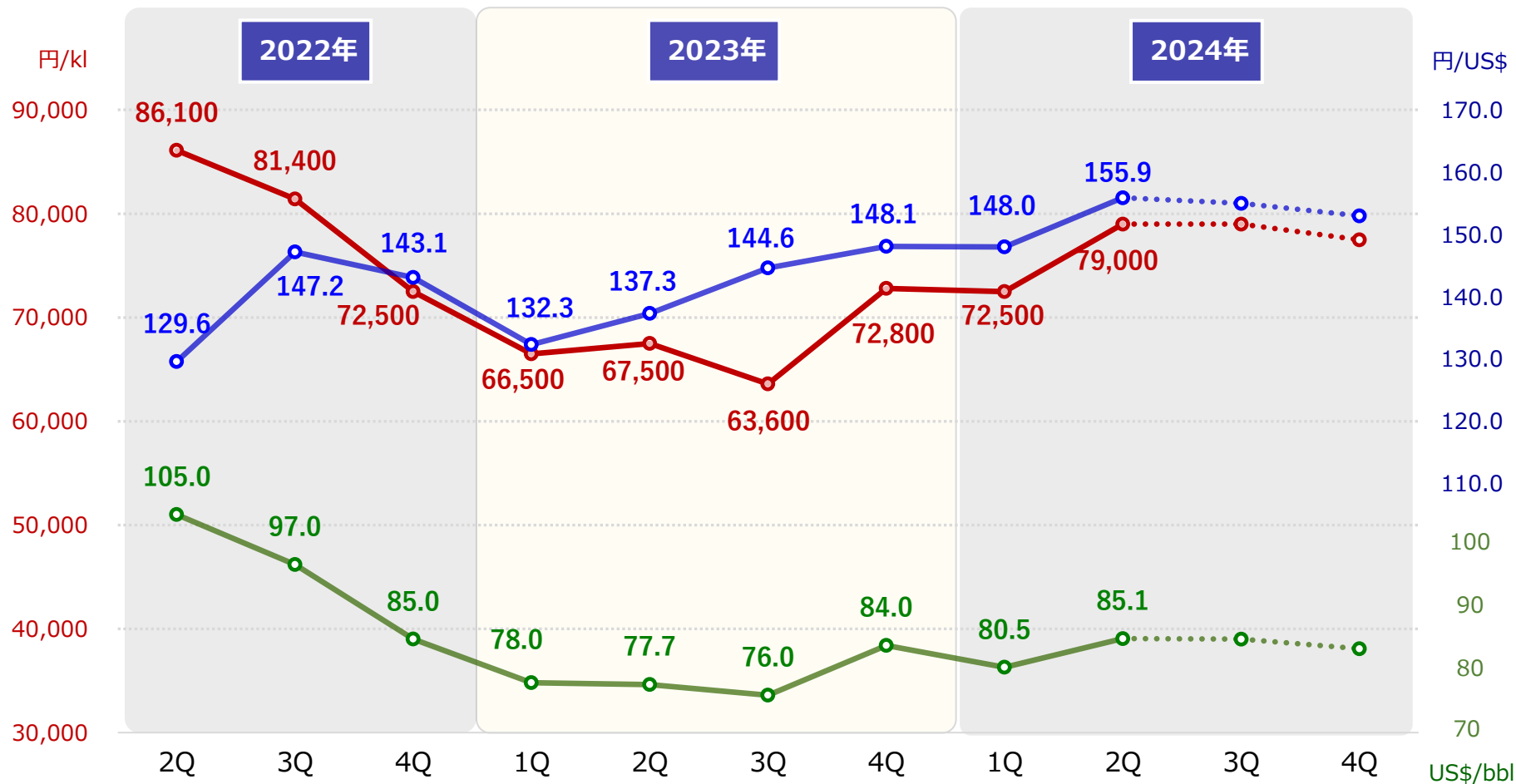
2024年12月期の業績予想

2

夢がある。技術がある。未来ができる。

国産ナフサ価格、ドバイ原油価格及び為替の動向

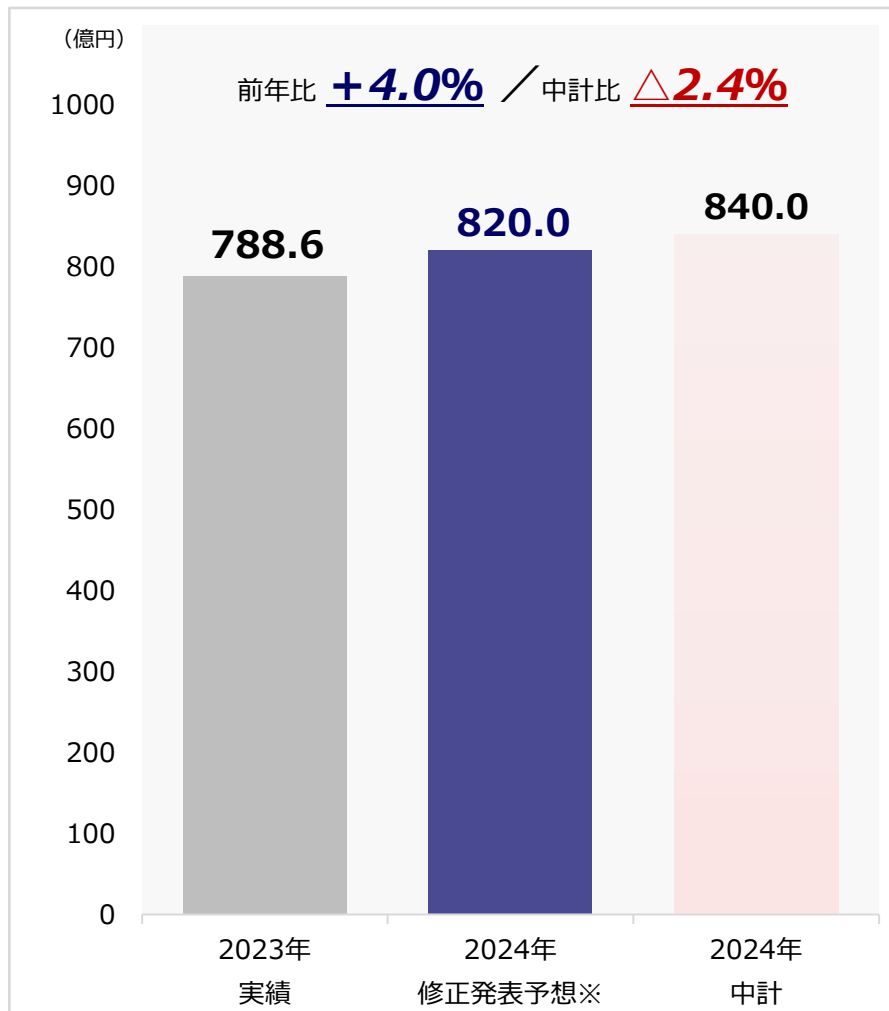
左軸(赤線)：ナフサ価格(円/KL) 右軸(緑線)：ドバイ原油価格(US\$/bbl) 右軸(青線)：為替(円/US\$)



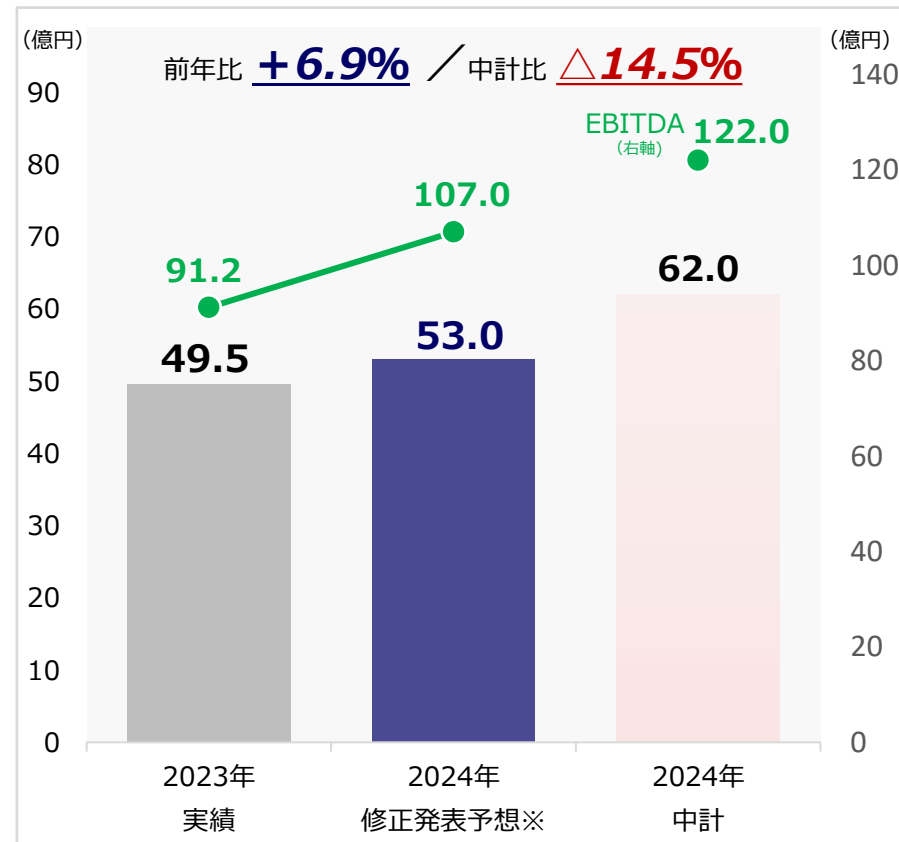
※折れ線グラフ中の点線の値は当社予想値です

2024年業績予想【連結売上高・営業利益】

【連結売上高】



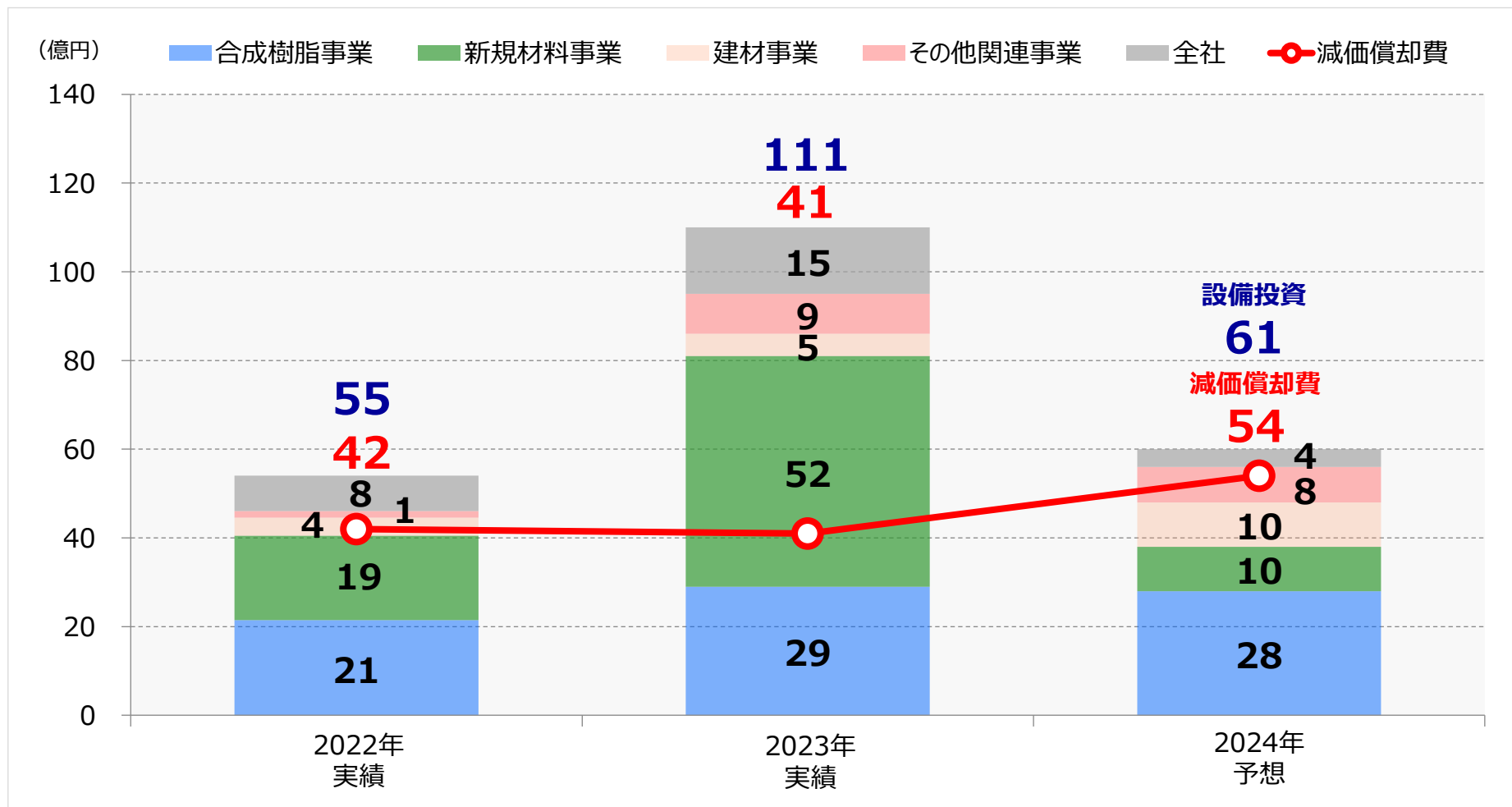
【連結営業利益】



(億円)	2023年実績	2024年修正発表予想※	前年比
経常利益	54.1	57.0	+5.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	43.1	43.0	△0.4%

※2024年修正発表予想は2024年6月14日付「業績予想の修正に関するお知らせ」記載の業績予想値

2024年設備投資（工事ベース）及び減価償却費予想



2024年業績予想【セグメント別売上高・営業利益】

【連結売上高】

(億円)

	2023年 実績	2024年 修正発表予想※	前年比	2024年 当初予想	当初予想比
合成樹脂事業	510.0	520.0	+1.9%	530.0	△1.9%
新規材料事業	136.9	162.0	+18.3%	164.0	△1.2%
建材事業	126.1	120.0	△4.9%	130.0	△7.7%
その他関連事業	15.5	18.0	+15.9%	16.0	+12.5%
合計	788.6	820.0	+4.0%	840.0	△2.4%

【連結営業利益】

(億円)

	2023年 実績	2024年 修正発表予想※	前年比	2024年 当初予想	当初予想比
合成樹脂事業	41.4	45.0	+8.6%	47.0	△4.3%
新規材料事業	18.5	19.0	+2.5%	21.0	△9.5%
建材事業	9.0	9.0	△0.1%	9.0	+0.0%
その他関連事業	4.5	5.0	+9.6%	4.0	+25.0%
全社費用	△23.9	△ 25.0	-	△24.0	-
合計	49.5	53.0	+6.9%	57.0	△7.0%

※2024年修正発表予想は2024年6月14日付「業績予想の修正に関するお知らせ」記載の業績予想値

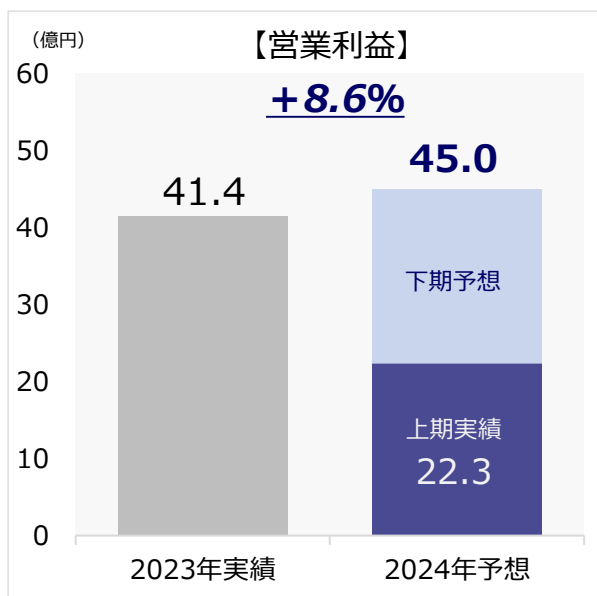
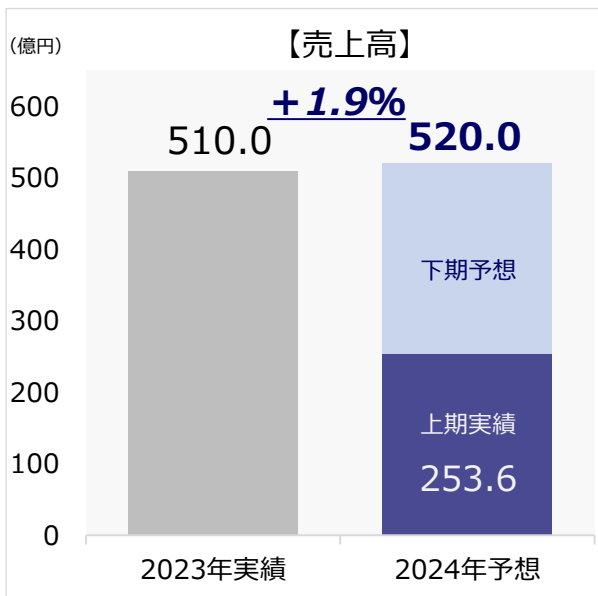
合成樹脂事業 今期の取組み

今期の課題

1. プロセス機能材料の拡販・開発
2. 環境貢献製品（Caerula®）の拡大（バイオ、生分解、リサイクル、薄膜品など）

今期の重点取組み

- 製膜技術を活かした自動車関連製品の拡販、伸長が見込まれる電池市場への新アイテム投入
- 販売数量の拡販（パーソナルケア関連、農業用マルチフィルム）
- 環境貢献製品の拡販、薄膜化、PIR、PCR原料の活用



重点取組みの状況

- 自動車市場は低調だが、自動車内装部材(天井材)や塗装用資材(耐熱マスキング)は販売数量増。リチウムイオン電池用部材のタブフィルムは低調
- パーソナルケア関連の新規案件が立ち上がり、順調に実績化。また、多層機を活用した農業用マルチフィルムも計画通り拡販
- PCR原料を使用したごみ袋が順調に実績化
- 原料費等コスト上昇分の販売価格への転嫁

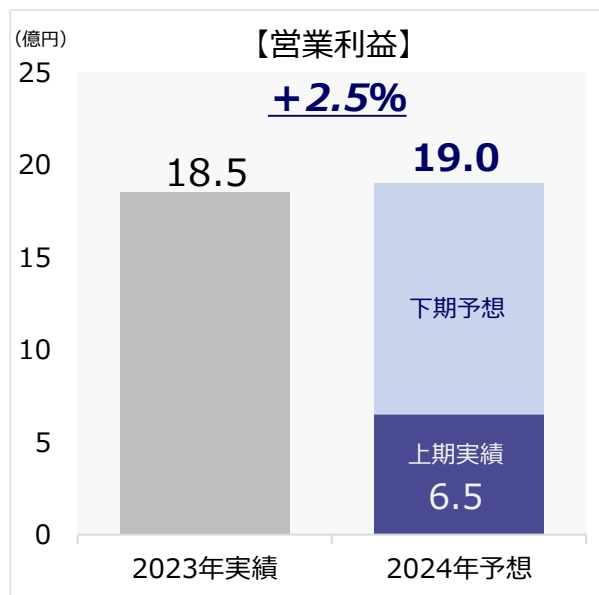
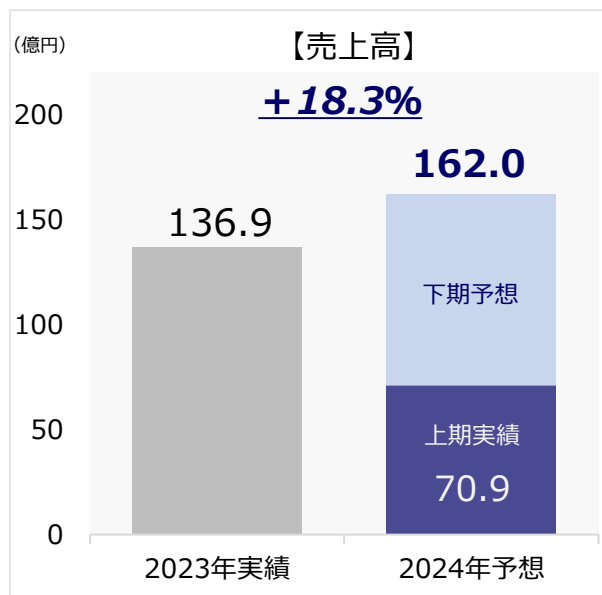
新規材料事業 今期の取組み

今期の課題

1. 仲南地区新工場（H棟）での広幅光学フィルム製造装置（G2ライン）の安定稼働
2. 海外拠点の確立

今期の重点取組み

- 大型液晶パネル向け広幅光学フィルムの拡販（G2ライン導入で年間生産能力は2倍）
- 機能材料BUの自動車材料製品の拡販
- オークラベトナムへの接着剤事業の製造拠点移管



重点取組みの状況

- G2ラインは設備起因による品質問題がクリアでき、量産化に向けて注力
- 機能材料BUにおいては、電子材料部材、OA機器用部材とモーター用接着剤の拡販に注力
- オークラベトナムは、工場が完成し、製造移管に向け設備搬入開始

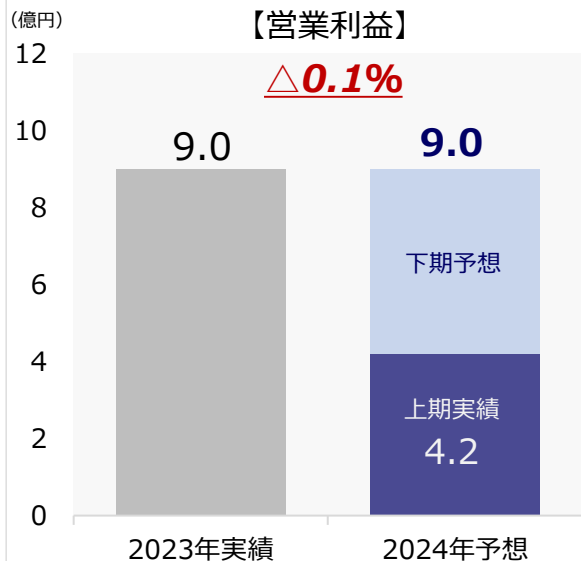
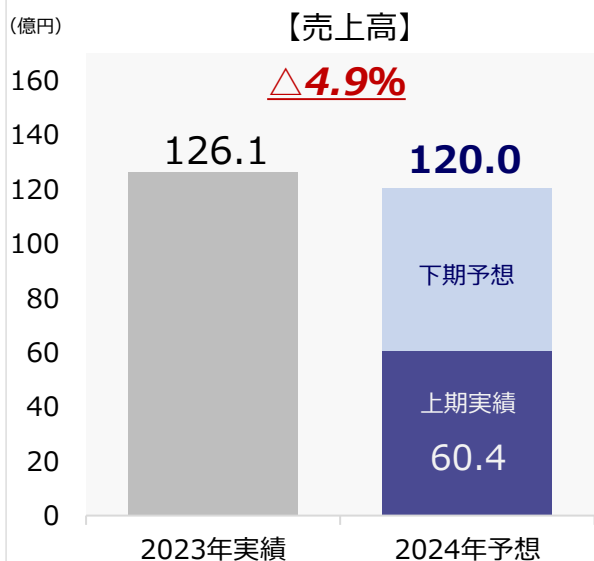
建材事業 今期の取組み

今期の課題

1. 加工ボードの拡販
2. 環境貢献型枠「木守®」の拡販
3. プレカットの非住宅分野への拡大
4. 省施工パネルの拡販

今期の重点取組み

- ダイニングキッチン、洗面用途を中心とした加工ボードの拡販
- エリア型枠組合、土木工事組合への環境貢献型枠「木守®」拡販に注力
- プレカットは商業ビル、公共施設、小売店舗等の非住宅物件をターゲットに拡販



重点取組みの状況

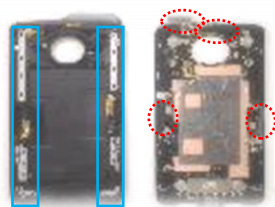
- 加工ボードは、市況は悪化しているものの、安定生産により受注を獲得し、堅調に推移
- 木守®は、ゼネコンの工期遅れにより、苦戦
- 住宅物件の需要は低迷しているものの、非住宅物件に注力し、拡販

R&Dセンター 今期の取組み

情報電子

高周波基板用フィルム

次世代通信規格5Gで要求される電気特性、耐熱性・寸法安定性に優れたフィルム



高機能ディスプレイ材料

精密塗工技術を活用した機能性フィルム



環境・エネルギー

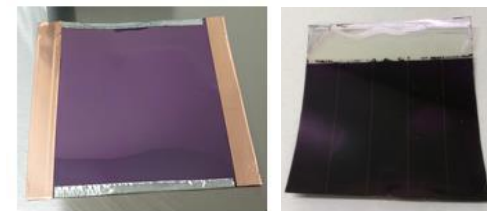
ケミカルリサイクル

市場回収した廃プラスチックのリサイクル



エネルギー関連

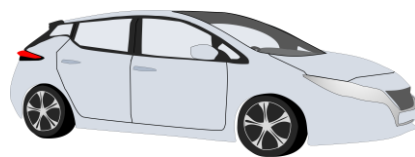
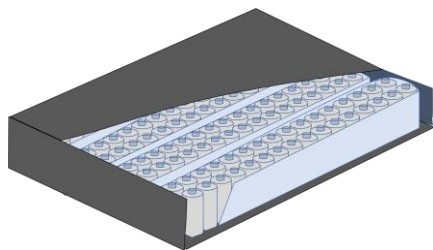
ペロブスカイト太陽電池 (試作品)



モビリティ

EVバッテリー用耐熱接着剤

温度変化の大きいバッテリーセルを固定する接着剤



ライフサイエンス

シングルユースバッグ

バイオ医薬品や再生医療の細胞培養工程で使用



ヘルスケア、スキンケア用原料

未利用天然物から抽出した機能性成分



資本効率性の向上に向けた取組み

政策保有株式の縮減に伴う当社株式の売出し

持合先株主様に対して株式持合い関係の見直しを提案し、積極的に当社株式の売却を働きかけた。その結果、株主様から当社株式の売却の合意が得られたため、7月に株式の売出しを実施。売出しを通じて、投資家層の拡大及び多様化、流動性向上を目指すとともに、大倉工業グループのブランドを株式市場に浸透・強化させることにより、中長期的な企業価値向上の実現に向けて注力。

形態	国内売出し
対象投資家	国内一般投資家及び国内外機関投資家
売出株式の総数	1,184,100株（オーバーアロットメント株式154,400株含む）
売出人	(株)中国銀行、(株)百十四銀行、三井住友海上火災保険(株)、(株)伊予銀行、(株)四国銀行、あいおいニッセイ同和損害保険(株)、(株)阿波銀行、住友バークライト(株)

⇒下期にて当社保有の政策保有株式の一部売却を実施

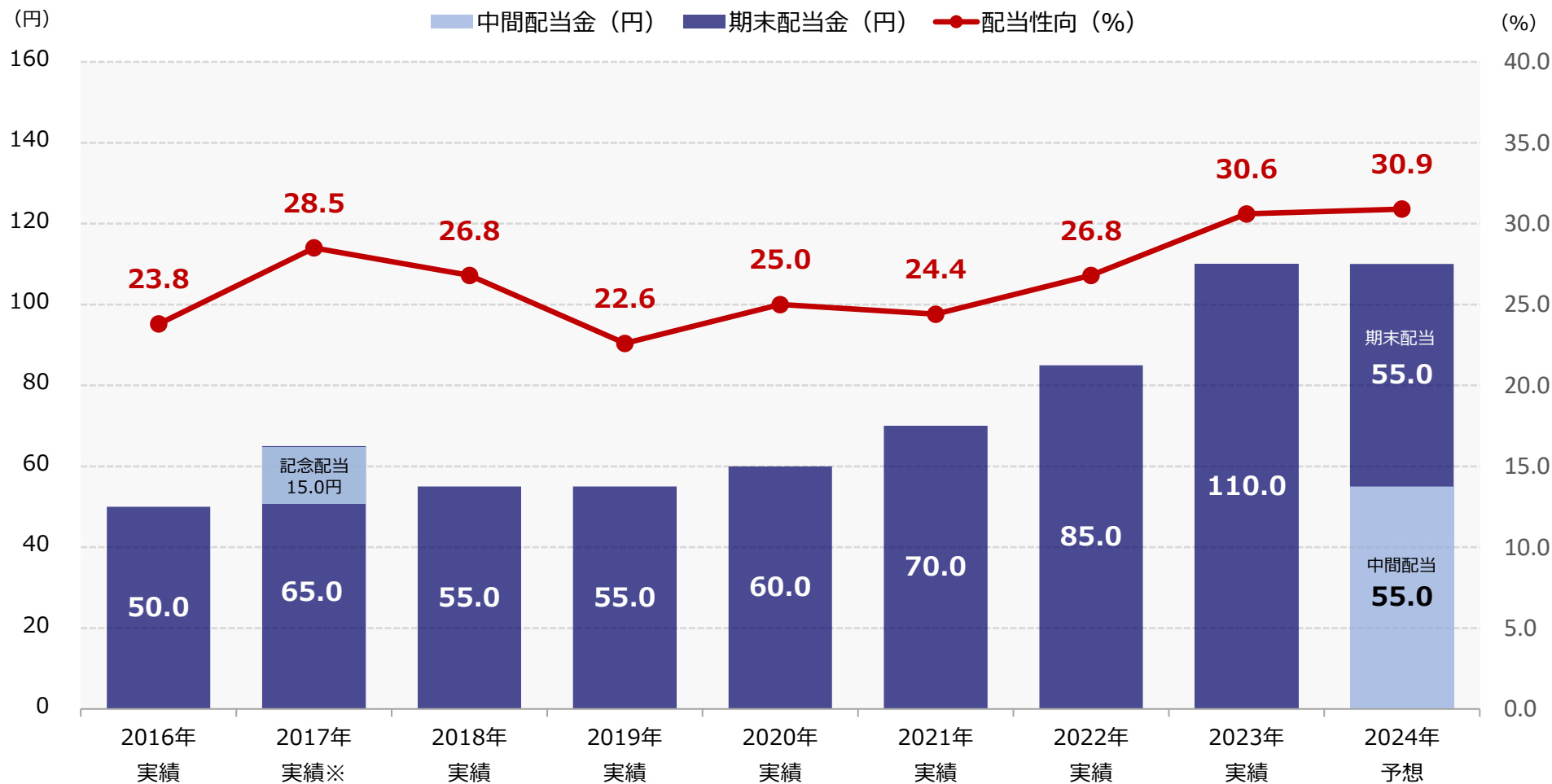
自己株式の取得

株主還元水準の向上及び資本効率の改善を目的とし、当社普通株式の売出し実施に伴う当社株式需給への影響を緩和する観点から、自己株式の取得を実施中。

取得対象株式の種類	当社普通株式
取得し得る株式の総数	1,200,000株（上限）発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合：9.92%
取得価額の総額	25億円（上限）
取得期間	2024年8月1日（木）～2025年6月20日（金）
取得方法	東京証券取引所における市場買付

株主還元の拡充に向けた取組み

株主還元の推移



※記念配当を含む

サステナビリティの推進

3

夢がある。技術がある。未来ができる。

当社のサステナビリティ

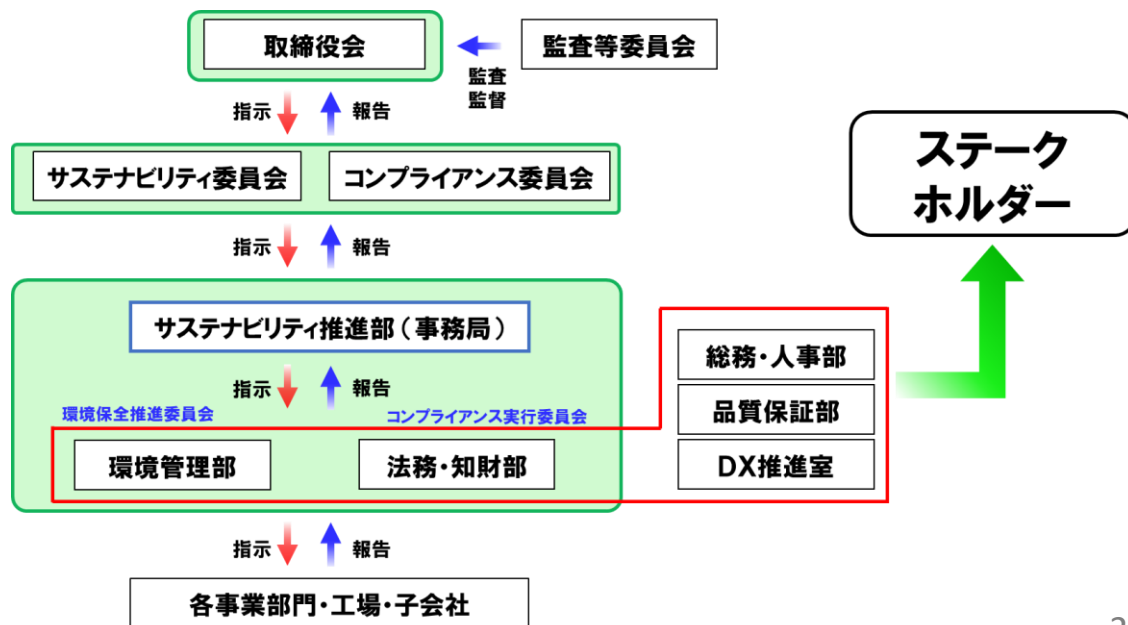
サステナビリティ基本方針

「社会から信頼される企業」であり続けるために、事業を通じて、社会との共生を念頭に企業の成長を目指す

サステナビリティ基本原則

1. 事業とESGの両立
2. 地球環境の保全
3. 法令順守・人権尊重と労働環境の配慮
4. 情報開示と対話

サステナビリティ推進体制



サステナビリティの推進【E：環境】

Environment：環境

2024年目標

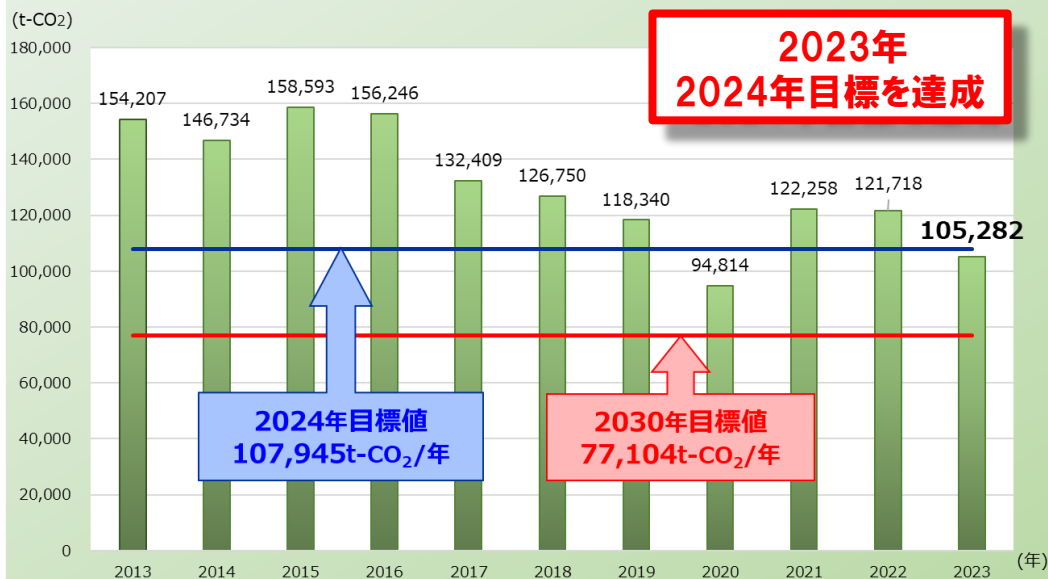
CO₂排出量：30%以上削減(対2013年度比)
 市場回収廃プラリサイクル製品売上：10億円以上
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率：50%以上



脱炭素経営(気候変動対策)の推進

CO₂排出量推移状況

2024年目標
2021年比12%削減(2013年比30%削減)



太陽光発電導入状況

■ CO₂排出削減量
 2024年1-6月実績：約1,240 t-CO₂/年
 2024年予測：約2,600 t-CO₂/年
 2025年予測：約5,000 t-CO₂/年

拠点	CO ₂ 排出削減量 (t-CO ₂ /年)	稼働開始 / 稼働予定
本社(D棟)	540	2023年4月
KSオークラ	207	2023年2月
九州オークラ	479	2023年7月
詫間工場	1,198	2024年2月
本社(C棟)	307	2024年2月
丸亀第四工場	1,589	2024年4Q予定
まんのう地区	884	2025年2Q予定

サステナビリティの推進 【E：環境】

Environment：環境

2024年目標

CO₂排出量:30%以上削減(対2013年度比)
 市場回収廃プラリサイクル製品売上:10億円以上
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率:50%以上

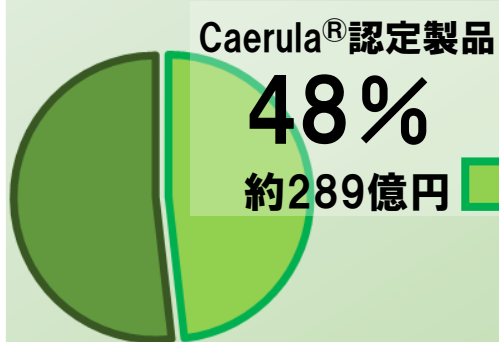


環境貢献製品の創出と拡大

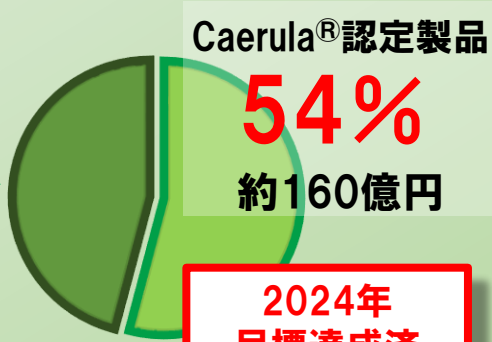
生活サポート群関連製品

**2024年目標
売上高比率50%以上**

2023年
売上高実績



2024年中間期
売上高実績



**2024年
目標達成済**

■環境貢献製品「Caerula[®](カエルラ)」

- 省之助[®]：フィルムの薄膜化
厚さ40%減 (20μm→12μm)
- 紙管キャップ装着製品:再生原料使用した紙管キャップを使用



省之助[®]



紙管キャップ
装着製品

サステナビリティの推進【S：社会】

Social：社会

2030年目標
 ダイバーシティ経営の実現
 積極的に地域社会活動・イベントへ参加する文化の構築
 新しい顧客価値の創出
 ビジネスモデルの転換



人的資本への投資を拡大(人材の育成と強化)

リーダーを中核とした活力ある組織へ

主な研修

- ① 未来塾・コーチング研修
- ② 職種別（営業・技術）研修
- ③ ラインケア・DI&E研修

DX人材の育成

主な研修

- ① DXリテラシー標準入門教育
- ② DXテクニカル教育等

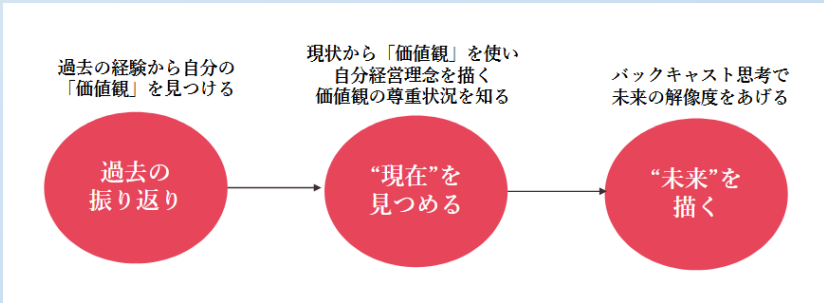
女性が活躍できる会社・組織へ

主な研修

- ① セルフリーダーシップ研修
- ② リーダーシップ研修






女性活躍を目的とした「セルフリーダーシップ研修」



約3億円の投資を想定

サステナビリティの推進

項目	対応状況
<p>「ESG/SDGs 推進分析融資」を通じた資金調達</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社三井住友銀行からの資金調達を実施（2024年3月） ○評価ポイント <ul style="list-style-type: none"> ✓ 環境貢献製品Caerula®の認定制度を構築し、省資源や資源循環等に資する製品を提供している点 ✓ 国産材の活用促進を通じて森林資源の循環利用を進めている点 ✓ 本業を通じてサステナビリティに取り組む姿勢を強化している点 ✓ 事業を通じて、SDGsが示す「目標 12: つくる責任 つかう責任」等の達成に向けた意欲を持っている点
<p>環境省 第5回「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境サステナブル企業部門の「環境開示プログレス企業」に選定（2024年2月） 
<p>サステナビリティレポート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナビリティレポート（日本語版）を2024年6月に発行 ・英語版は2024年10月に発行予定  

免責事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

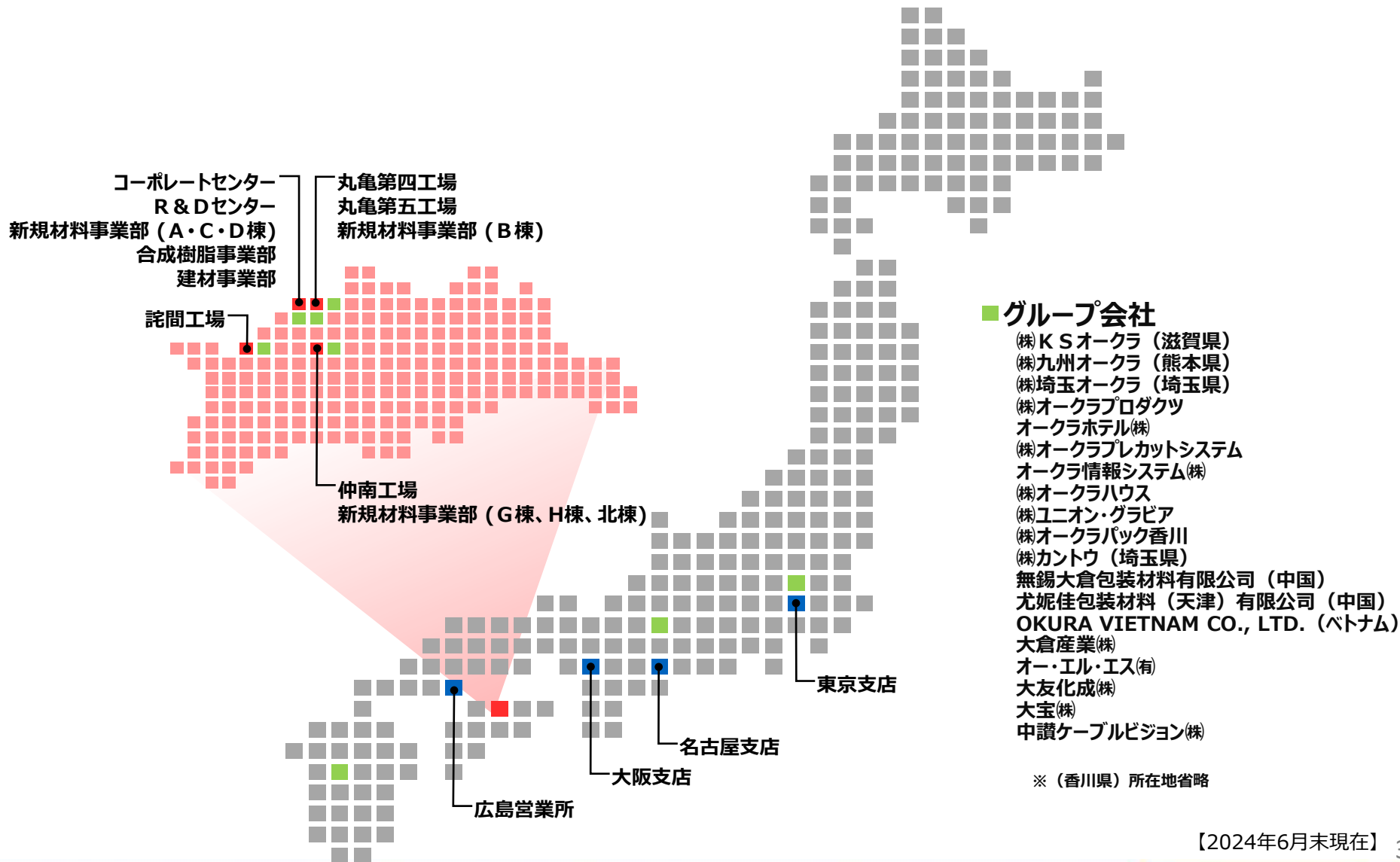
本資料は、情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の売買を勧誘することを目的としたものではありません。

参考資料

4

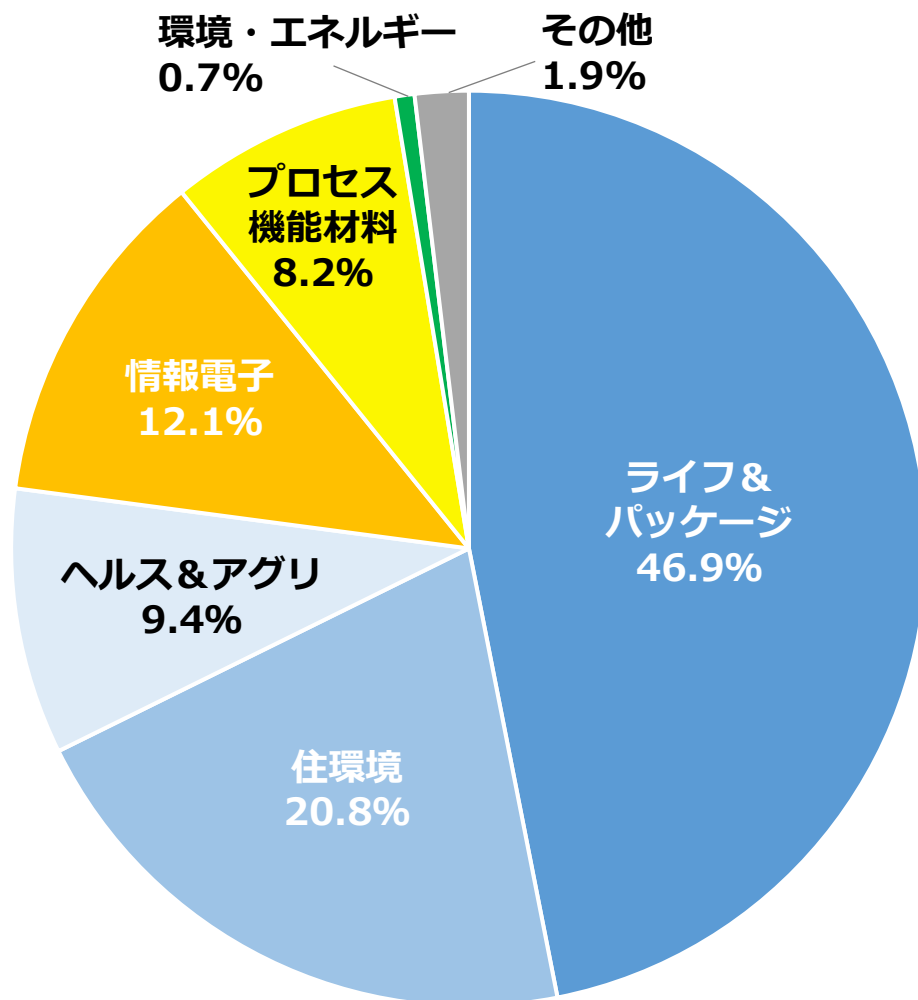
夢がある。技術がある。未来ができる。

当社の事業所とグループ会社

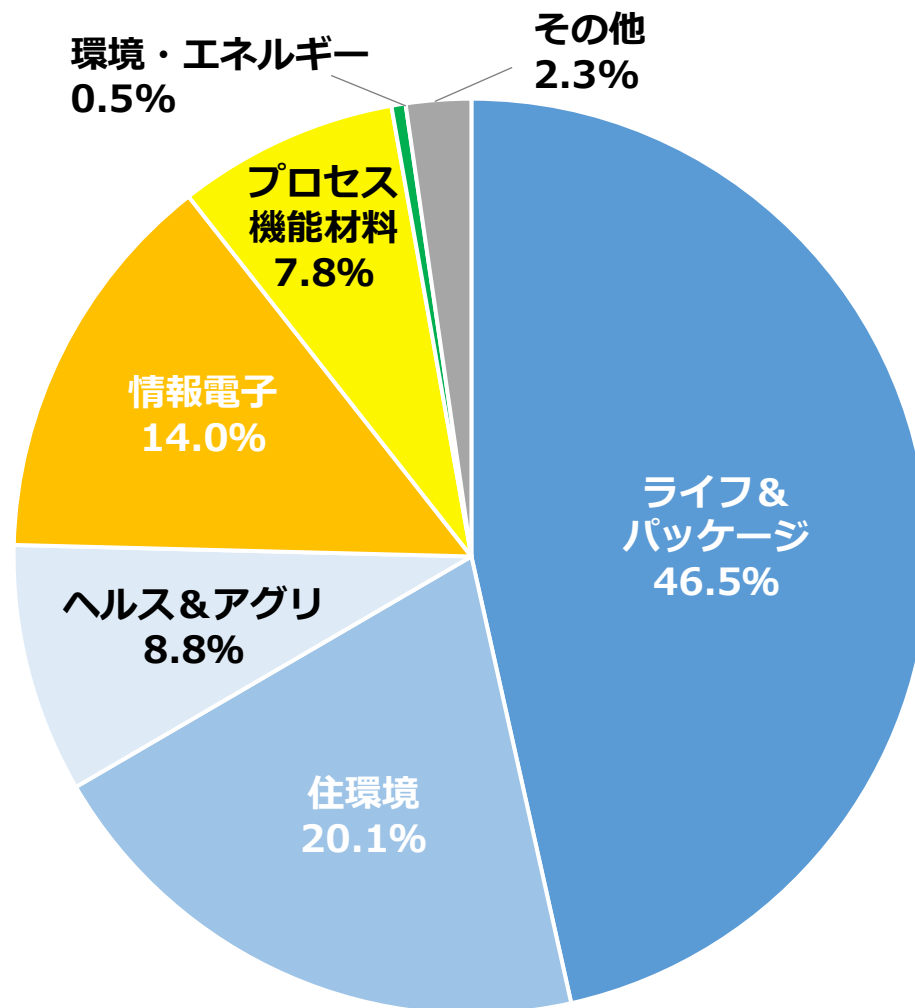


領域別売上高比率

【2023年中間期実績】



【2024年中間期実績】



事業紹介

【合成樹脂事業】

ライフ&パッケージBU シュリンクフィルム

中間物流用の重量物包装や集積包装、食品を直接包装するものなど、オリジナルのデザインや形状を生かしたまま、商品をより美しく安全に包み込む。用途に応じた独自の機能を付与すると共に、印刷などの二次加工や包装システムなどを提案。

軟包材

ナイロン・ポリエステル・ポリエチレンなどのさまざまなフィルムを貼り合わせることにより、それぞれの特性を活かした機能的な複合フィルムのこと。冷凍食品の包装やIC基盤の保護用フィルム、詰め替え用のスパウト付きラミネート袋など、身近なところから最先端の電子材料にまで幅広く提供。

リキッドパック

液体包装容器の総称であり、段ボール箱内で使用されるバッグインボックスとドラム缶内で使用されるバッグインドラムに大別される。醤油などの食料品や化学薬品などの液体輸送の合理化に寄与。

【用途例】

乳酸菌飲料集積用、カップ麺、酒パック等の包装フィルム、食品トレイ包装用バリアフィルム



【用途例】

食品、洗剤、柔軟剤、シャンプー、ペットフード、お菓子等



【用途例】

ミネラルウォーター、油脂加工製品、調味液（醤油、ソース等）、液体肥料、液体洗剤、接着剤



事業紹介

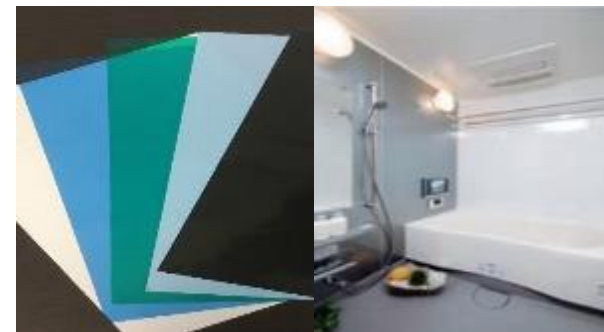
【合成樹脂事業】

プロセスマテリアルBU

電子・エネルギー・住宅・メディカルなど様々な分野の主材や基材を提供。液晶パネルに使用される位相差フィルムの保護用フィルムなど、独自の樹脂ブレンドノウハウ・高い製膜技術・徹底した品質管理で最適なソリューションを提供。

【用途例】

光学、電子、電気製品、自動車、ユニットバス壁面、ドア・クローゼット・床などの建装材など



ベーシックマテリアルBU

規格袋・ごみ袋・包装/梱包荷材など、各種既製品はもとより、食品・衛生材料・家庭紙・日用雑貨・産業資材・医薬・洗剤・化粧品・印刷出版物など幅広い分野で製品の包装に使われているポリエチレンフィルムを提供。

【用途例】

規格袋、日用品、食品用パッケージフィルム、衛生材料用フィルム



アグリマテリアルBU

農業用の機能性フィルムであり、全国の農家から親しまれている製品。農作業の省力化と作物の収穫増のために、保温・地温上昇抑制・害虫忌避・抗菌・生分解といったさまざまな機能を持つ製品をラインアップ。

【用途例】

農業用フィルム、肥料の保存



事業紹介

【新規材料事業】

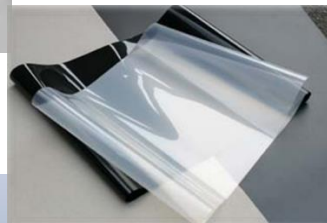
機能材料BU

TPEチーム（ウレタンフィルム）

機械的・化学的・電氣的等著しい機能を持つウレタンやフッ素系等の単層、多層フィルムをメディカル分野や自動車部品メーカー等に提供。

【用途例】

創傷用被覆保護ドレッシング
プリント接着用シート
印刷転写用シート
ヘッドレスト
ペイントプロテクションフィルム



BLTチーム（シームレスベルト・樹脂被覆ローラ）

プリンター等の画像情報機器に必要な電子機能を持つベルトやチューブをプリンター・複写機メーカーに提供。

【製品種類】

LBP用中間転写ベルト
クリーニングローラ
転写ローラ



ADHチーム（アクリル接着剤）

3タイプの硬化機構の無溶剤型アクリル接着剤を車輛・電気・鋼板・鋳型模型からゴルフクラブまで幅広い市場に提供。

【用途例】

モーターマグネット(電気自動車部品)
塗装鋼板
ゴルフクラブ
鋳型模型

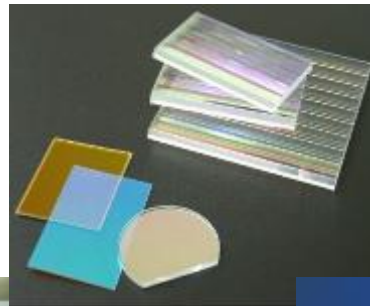
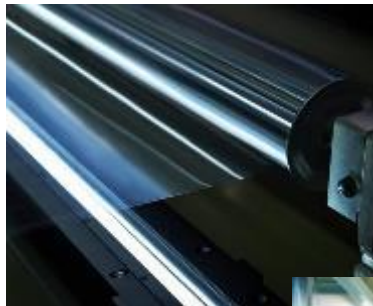
事業紹介

【新規材料事業】

電子材料BU（加工）、光学材料BU（製膜延伸）

MNTチーム、KEチーム、PLMチーム、CTチーム、MCSTRチーム

大型から中小型サイズの液晶ディスプレイを始め、タッチパネルや液晶プロジェクター等、電子表示体のキーマテリアルとなる各種光学機能性フィルムをFPDメーカー等に提供。



事業紹介

【建材事業】

木質ボード事業：パーティクルボード（素板）

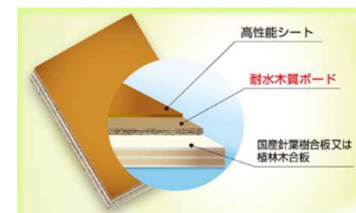
木質廃材を細かくしたチップに接着剤などを混ぜた原料を高温でプレスし固めたパーティクルボード。木質廃材を焼却せず製品としてリサイクルしており、二酸化炭素の排出を抑制し、地球温暖化の防止に寄与。



土木・建設資材事業：環境貢献型枠（木守®）

国産針葉樹合板又は植林木合板に、平滑性に優れた耐水木質ボードを練り合わせ、表面に高性能シートをラミネートしたコンクリート型枠用合板。

ラワン型枠用合板と比較しても強度、耐久性など同等の品質、性能をもっている。



住宅部材事業：省施工構造断熱パネル

構造用耐力面材と断熱材などが全てセットになっている。

パネル施工と同時に断熱工事が完了するため、日数の短縮、職人や大工の労力軽減に繋がる。



建築・土地造成事業：株式会社オークラハウス

香川県丸亀市に本社があり、県内の新築、リフォームを手掛ける。エネルギー収支ゼロを目指したゼロ・エネルギー住宅や国土交通省が定めた耐震性能最高等級「耐震等級3」相当で建てるなど、快適に安心して永く住んでもらう住宅を提供。



木材加工事業：株式会社オークラプレカットシステム

香川県三豊市に本社があり、木造建屋宅用構造材加工（プレカット加工）及び木造建屋用資材（建築金物・基礎素材等）の仕入販売を行っている。よりよい家を作るために、数々の建築データを基に、安全に現場での作業を迅速に行えるプレカットされた木材を、日々つくり続けている。



事業紹介

【その他関連事業】

ホテル事業：オークラホテル株式会社

香川県丸亀市に本社があり、オークラホテル丸亀を営業。
オークラホテル丸亀は瀬戸内海を一望する最高のロケーションで
ビジネスや観光の拠点に便利な立地。



情報処理事業：オークラ情報システム株式会社

香川県丸亀市に本社があり、ソフトウェア開発やコンピュータシステムの運用、保守パッケージソフトの製造・販売、コンピュータ機器販売を手掛けている。ニーズを拾い上げ、形にするまでトータルでサポート。



調剤薬局向け

鑑査レンジ® Packs

小型ボディでスピーディ、
AI画像鑑査で安心・安全。

当社の強み

さまざまな分野・業界への 製品対応力

様々な業界のお客様とのお取引により
多様化するニーズにマッチした製品を
高い技術力を生かし供給し続けています。



当社の強み

材料設計開発

ポリマーブレンドアロイ
有機無機ハイブリッド
重合、多層化



加工技術

製膜、延伸、塗工、印刷、
貼合、加圧、抽出、+α



用途・形態・使用条件にマッチした材料と
製造プロセスでお客様のご要求に対応

大倉工業の沿革 | 戦災後の混乱期からの出発

創業の意義 【創業者 松田 正二】

高松、倉敷飛行機勤務時に終戦を迎え、80数名の従業員の生活を守ることと、戦後社会の復興と人々の役立つ為に事業を起こす

世の為 = 社会に役立つ

人の為 = 従業員を守り、人々に役立つ

復興に不可欠な住宅とその材料販売で創業



高松製材所の風景



木材市売の四国住宅の頃

1945	岡内製材所として製材・小型の復興住宅を販売
1947	四国住宅株式会社を設立 ⇒ 創立記念日
1949	高松(東浜町)にて木材市売りを開始
1951	四国実業株式会社に商号変更 倉敷ビニロンを発売
1952	丸亀(城西町)にて木材市売りを開始
1955	ポリエチレン加工に着目し製造装置を購入

大倉工業の沿革 | 第一期【黎明】偉大な歩み

国内に原料メーカーが無い中で、ポリエチレンフィルムの将来性に着目

当該事業の開始を機に社名(商号)変更

長年勤務しお世話になった倉敷紡績と大原社長から一字ずつ戴く

倉敷紡績 社長

大原 総一郎氏

倉敷紡績株式会社



1955 【全体】大倉工業株式会社に商号変更

1956 【合成】ポリエチレンフィルム本格生産(港町)

1959 【合成】東京工場操業開始
その後、大阪工場、福岡工場を立て続けに建設1962 【全体】大阪証券取引所第2部市場に株式上場
【合成】本社工場操業開始
【建材】ラワン合板事業に進出1964 【合成】岡山工場、熊本工場、静岡工場を建設
【建材】プリント合板製造開始

1967 【合成】埼玉工場操業開始



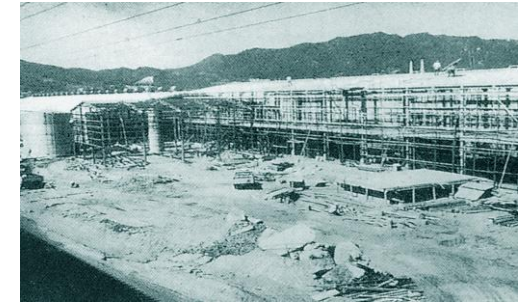
高松本社ビル



本社工場構内

大倉工業の沿革 | 事業の拡大

1968	【建材】 詫間工場操業開始、【他】 冷凍倉庫事業開始
1970	【全体】 東京・大阪両証券取引所第1部市場に株式上場
1971	【建材】 パーティクルボード製造開始
1972	【全体】 本社を香川県丸亀市に移転
1973	【他】 四国初のマンション(大倉マンション)建設 「オークラホテル高松」をオープン
1977	【合成】 丸亀第四工場操業開始
1987	新規材料事業部を新設
1988	【他】 「オークラホテル丸亀」がオープン
1992	オークラ情報システム(株)設立 【合成】 製版会社(株)ユニオン・グラビア設立 丸亀第五工場操業開始
1995	中国に「無錫大倉包装材料有限公司」を設立 【合成】 仲南工場操業開始
1996	【建材】 詫間工場で爆発事故



建設中の詫間工場
パーティクルボードライン



オークラホテル丸亀



新規材料事業部(A棟)

大倉工業の沿革 | 新たな事業で拡大

液晶ディスプレイ用光学フィルムの事業拡大

2000	【新規】 光学フィルム工場C棟操業開始 偏光板事業「オー・エル・エス(有)」を設立
2001	【合成】 福岡・熊本の2工場を統合し九州工場操業開始
2004	【新規】 光学フィルム工場D棟操業開始 【合成】 「(株)九州オークラ」を設立
2006	【合成】 「(株)OKプロダクツ岡山」、 「(株)オークラプロダクツ香川」を設立
2007	R&Dセンターを新設 【合成】 「(株)関西オークラ」、「(株)関東オークラ」を設立
2009	【他】 「(株)オークラプレカットシステム」を設立



新規材料事業部(C棟)



新規材料事業部(D棟)

大倉工業の沿革 | 技術優位な企業集団を目指して

経営品質を高め、技術優位な企業へ

経営基盤を強化し、要素技術を進化させる

2012	【合成】「尤妮佳包装材料（天津）有限公司」を設立 【建材】パーティクルボードJIS認証取り消し
2013	第四次中期経営計画スタート JIS認定再取得
2014	【新規】仲南G棟操業開始 オー・エル・エス新ライン増設 【合成】関西オークラ新工場(第3工場)操業開始
2016	第五次中期経営計画スタート 監査等委員会設置会社に移行
2017	会社創立70周年
2019	【合成】「(株)埼玉オークラ」を設立
2022	【合成】「(株)KSオークラ」を設立
2023	【新規】「OKURA VIETNAM CO., LTD.」を設立



新規材料事業部(仲南G棟)
10.5世代パネル対応の
最新工場



新規材料事業部「OKURA VIETNAM CO., LTD.」
新工場イメージ図

2024年12月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料

2024年8月27日
大倉工業株式会社



END